

磐城時報

編輯者 藤田弘成
印刷所 磐城印刷所
發行所 磐城時報社
電話 一〇〇〇
代金 一月三〇元 三月九〇元 半年一六〇元 一年三〇〇元
廣告料 行字一ヶ月五元 行字一ヶ月五元
日刊日曜祝祭日翌日休刊

膨脹豫算に現れた 授業料の値上げ

同時に証明手数料も増額 四千圓の財源を生む

市制實現に向つて邁進してゐる平町の明年度豫算は都市施設の充實によつて近年未曾有の膨脹を來し、これがために町債十萬圓の公募と管別戸數割一戸平均額一圓の増額を見たが、更に町當局では歳入出の均衡を計るた

め歳入面の第二項目たる使用料及び手数料の増額を計ることになつた。即ち「使用料」の項目中に含まれてゐる小學校高等科授業料は従來一ヶ月八十錢であつたが、

平町新豫算の増減

前年度との比較對照

平町の明年度豫算各項中前年度算よりも増額及び減額されたものを擧げれば左の如し、單位圓の増減は前年對照増減(括弧内は前年對照増減)減額されたもの

業紹介所費三三三(九二)社會事業費四〇〇(五〇)警備費八五三(二六)公債費七三九四〇(三三三)戻入金六一五(一七九)地方改良費二八五〇(三〇〇)豫備費七〇〇(二九八)

産組記念日をトシ 擴大強化を圖る

産業組合の事業普及宣傳に 郡部會が實施計畫練る

産業組合石城郡部會では來月六日産組記念日を中心として、北田生れ山内アエ子(一八)は去る十三日小名濱町料理屋玉の井方より前借三百五十圓で住替へたが僅か二日働いたばかりで十五日午後一時ごろ前借を踏倒して逃走したが小名濱時代の情夫である新潟縣北蒲原郡乙村生れ日雇労働者佐藤三郎(二七)と共謀しての前借詐欺らしいと抱へ主から発見者に五十圓の懸賞金を添へて。

驚異的被害に鑑み 雪害對策を講究

郡下各町村に調査を依頼し 縣當局が乗出す

本月初旬郡下一帯を襲つた未曾有の大雪が雪國地方と比較して驚異的被害を與へたのに鑑み、

海岸地方の魔白禍

特異性を検討し農産、林業方面に對する被害を除去するため

抱へ主恐怖症時代

酌婦の前借詐欺續出に 懸賞金付で平署に搜索願三件

郡下の徴兵検査

六月十日から執行 郡下の十一年度徴兵検査は六月十日から十四日間平第一小學校講堂で、同じく廿六日から四日間植田小學校講堂の二ヶ所で行されることに決定。廿四日福島縣隊區司令部から發表された

家は生活困難 仙臺市越 俸は行方不明

仙臺市越 仙臺市越 仙臺市越 仙臺市越

市價の調節斷行

倉庫を利用して 本炭の販賣統制

神社建設費 諸氏は同村 寄付者表彰

神社建設費 諸氏は同村 寄付者表彰

濱三郎素人將

濱三郎素人將

市價の調節斷行

倉庫を利用して 本炭の販賣統制

かまぼこ製造
折詰仕出

た惣菜用
さつま揚
吉原揚

平町一丁目(電話一四二番)

蓄膿症 快鼻湯

本剤は幾多の薬劑あり、雖他薬の及ばざる良薬であります。左の病症の方は一時も早く服用され快癒されん事を御奨め致します。蓄膿症、慢性急性性鼻答加兒、鼻汁多加症、頭重、肥厚性鼻炎に靈効あり。其他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に偉大なる神効ありと賞賛されて居ります。

磐城國平町一丁目
家傳胃腸藥 製造元 水野藥局
快鼻湯 責任製劑者 藥劑師 水野清一
電話六九九番

吸入用酸素 純度99%

モノサシ
ハカリ
マス
体温器
寒暖計

●寫眞機 材料一式
●秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス
●關内藥局 電話四〇番

外科 専門 X光線科
平町南町
上田外科醫院
電話一三九番
入院應需

親切は「理髮・東京」の出発点
誠實は「理髮・東京」の生命線

理髮 東京

平町三丁目警察署通り

和洋銅鐵金物問屋
久益屋商店
諸橋久太郎
電話九九

かまぼこ 製造
折詰仕出し
お惣菜用 吉原揚
さつま揚
平町二丁目 電話三〇五番

冬藤市

牛豚肉

本町田町
三三三屋
電話三三三番

國防色外套賣出

新制定の國防色羅紗製防寒防水の完備品

2尺6寸...10圓60錢ヨリ
各寸30錢ヨリ

ふかや洋服店 平 三 電 203

大藏省允許
無盡城
自力更生、無盡の財源
簡易、金融、趣味、貯蓄
平町電話三七八番

に旅行に便輕な.....

新型 ポストン・バック

¥2.50 ¥3.90

¥4.80 ¥7.50 ... 各種

●其他旅行携帶品種々取揃いて御座います●

ツルヤ 電一四〇

夜 診
腸胃 病性
胃腸病科 内科
花柳病科 性病科
泌尿器病科 皮膚科
肛門病科
門 專
院醫科 性病 胃腸 村松
(番七〇一電) 町南町平
療 間

社員採用 二十才以上
五十才迄
個定給參拾圓外手當支給
希望者は履歴書持參本人來談
平町鍛冶町十八
日本商事株式會社 平支部
公債 債券
擔保 貸付